

## 選挙と為替レート

今年の世界で多くの選挙が実施され、今後も予定されている。選挙は金融市場全般に影響を与え、為替レートの変動要因の一つでもある。

選挙と為替レートの関係については一般的に次のようなことが言える。

選挙の結果、現政権が変わると当該通貨は売られ、政権の継続は当該通貨の買い、もしくは影響なし、となる。但し明らかに政権交代によりその国の経済の好転が見込まれるケースでは逆に当該通貨は買われる。また政権交代に至らなくても政権基盤が顕著に弱体化するような結果になると当該通貨は売られる。

最近の事例を見ると、南アフリカでは政権与党の ANC が総選挙で議席を大きく失い、依然として第一党であるものの現大統領の政権を維持するためには野党との連立を余儀なくされる。南アでは議会が大統領を選ぶ。

南アフリカランドは売られ、ドルランドは 18.20 水準から 18.90 近辺まで買われ、直近では 18.70 水準で推移している。ネルソン・マンデラが率いて以来圧倒的な支持を集めてきた ANC は今回初めて過半数を割ったことで、政権基盤の弱体化は必至だ。

メキシコでは大統領選挙で現職の後継者の与党候補が大勝した。普通ならペソが買われるはずだが、逆にペソは大きく売られた。ドルペソは 16.90 前後から

17 台半ばまで買われ、その後 18 台を付けえた。直近では 17.82 近辺で推移している。新大統領は現大統領の傀儡と見られ、バラマキ政策の継続で財政赤字の膨張は避けられないとの見方からだ。

ペソは元来堅調な動きをしていた。メキシコへの直接投資の増加や米国移民からの送金それに高金利などがペソを支えてきた。政治は元々ペソにはネガティブな要因だった。大統領はビジネスには好意的でなく、国有化志向が強く、貧困層へのバラマキ政策で政治力を維持してきた。

今回の選挙結果によるペソ売りは政治だけに焦点を当てたもので、ちょっと行き過ぎた感があるのではないか。トランプ大統領の可能性が視野に入っていない限りはペソが戻す可能性がある。

インドではモディ首相の BJP が単独過半数を失ったが、与党連立政権は維持されモディ首相が 3 期目の政権を維持すると見込まれている。BJP の退潮は事前の予想と違いサプライズであり、モディ首相の政権運営は従来よりも困難になることは予想された。そこでドルルピーは 83 前後から 83.60 を超えたが、直近では 83.44 水準で推移している。ルピーは売られたがそれほどの動きではなかった。経済成長やインドへの直接投資の増加などの方に関心が移り、為替への影響は次第に失われると思われる。

今後予定されている選挙もある。英国は 5 月 30 日に議会を解散し、7 月 4 日に総選挙を実施することになった。政権与党の保守党が大きく議席を失い、労働党政権が誕生することが予想されている。

普通ならば与党の大敗は通貨売りになるが、今のところは逆の動きになっている。BREXIT を主導した保守党よりも労働党の方が EU との関係は良くなり、交渉も円滑に運ぶとの期待や、保守党時代の数々の失政(ジョンソン政権やトラス政権など)により生じた政治の不確実性が払しょくされるとの期待があるからだ。

もっとも最近のポンドのドルやユーロに対する上昇は利下げ期待のずれから生じている部分が多く、総選挙がどの程度影響しているかははっきりとはわからない。